

2026年  
1月22日(木)

開場15:30 / 開演16:00

会場：逗子文化プラザ  
さざなみホール

出演

ジュン 葉山

マンドリン

平野ユキノリ 山下優樹

作詞・プロデューサー・時代考証：

濱野成秋（橘かほり）

後援：逗子市 葉山町



歌は時代の贈り物

JUN HAYAMA

## 新春歌謡ポップスコンサート

前口上 東西東西 みなさま、本日はようこそ。今年も新年、松の内も終わり平和の裡に本格始動が始まりました。思えば早いもので古賀政男生誕120年の祝賀コンサートも開始して3年目になります。まさに「歌は時代の贈り物」です。歌の歴史が持つ重さは時代の変遷と共に益々人の心に遺ります。永遠の「心の歴史」になって。私どもでもそれを意識して新作を発表し続け、歴史的歌謡としてYouTubeに再三登場、気炎を吐いています。これも皆様方のご支援の賜物です。

さて毎回主役のジュン葉山君はピアノ、エレクトーン、シンセサイザーを操作して歌う、業界では稀有な存在で注目を集め、新曲も好評でCDになりました。平野君は昨年から公演で多忙を極め、山下君は栄誉ある明大マンドリン倶楽部のコンマスとして今春卒業。輝かしい若手のプロ・デビューです。どうぞみなさま、本年もよろしくご声援のほど、お願い申し上げます。

2026年 正月吉日 日本浪漫学会会長 濱野成秋



## 第一部 現代から一世紀前に

## 時代考証：濱野成秋

今からちょうど100年前、ヘミングウェイの『日はまた昇る』が登場。ハードボイルド小説の幕開け。その前年に出たフィッツジェラルドの『偉大なるギャツビー』で浮かれたフラッパーたちのチャールストン・ダンスのさ中、わが国は関東大震災の後遺症の中、活路を満州国建設へ。その時代にタイムスリップする前にまずは現在の渋谷から。

### №1 「どじょっこふなっこ」

作詞：濱野成秋 作曲：ジュン葉山

同名の童謡は秋田の産。小川の生き物になって語る“人間界vs.自然界”のわらべ歌。この歌では鬼っ子役の幼馴染の男女が東京に。仲間の結婚披露宴で歌えとなって目覚める「銀恋」ならぬ郷愁。渋谷の雑踏に生きる秋田のどじょっこふなっこたちは如何に…。

この新曲は高度成長期の都市型ジャパンを舞台に展開する時代の贈物。

### №2 「別れのブルース」(1937)

作詞：藤浦洸 作曲：服部良一

淡谷のり子が唄うと絶妙。外地で大流行。軍部は苦い顔。淡谷さん、数年後、特攻隊員の公務慰問で、歌の途中でも敬礼してゼロ戦に乗って去る若者を視て泣きながら歌う。上官も泣いている。送る女学生たちも涙、涙。知覧の飛行場でこの情景に毎日接していた旅館の女将のうるむ眼を筆者は黙視できなかった。

### №3 「なぎさ橋ブルース」

作詞：濱野成秋  
作曲：ジュン葉山



CDあります

時代は現代へ。別れは辛い。場所は逗子のなぎさ橋。相手は妻子待つ家に。「もう帰って来ないでいいの」と、絶叫するヒロイン。自分はもう「からっぽの貝」みたいだと慨嘆。その心情、同情に余りある。筆者は女形筆名で書いたが、リリース後、このヒロイン可哀そうねの声しきり。結局続編を書くことになった。出来たのが№4の「御成町ブルース」である。

### №4 「御成町ブルース」

作詞：濱野成秋  
作曲：ジュン葉山



CDあります

なぎさ橋で別れて十年後、場面は逗子から鎌倉駅江ノ電側の御成通りへ。余談になるがこの種の再会劇は江戸小唄にもある、「近くへ来たときゃ寄りゃしゃんせ、誰に気兼ねがエ、あらうかひな」と来るから、大人の恋は多分にふてぶてしい。「御成町ブルース」でも。20歳代の純情さは10年も経つとしたたかに。昔逢引の喫茶店にて待つ中年女。その心境や如何に…これまた現代という時代に「世代」の贈物である。

*With Mandolin*

### №5 「蘇州夜曲」(1940)

作詞：西条八十 作曲：服部良一  
歌：ジュン葉山 マンドリン：平野ユキノリ

時代は真珠湾奇襲の前年。隣国との関係が複雑化の中の日中男女のラブストーリー。蘇州は上海から簡単に行ける水の都。いまでも船を浮かべて春の宵を楽しむ人は多い。うっとりするような情景は西条八十の得意技。寒山寺も近く。行くなればやはり恋人同伴で。但し、未だ政情不安定ゆえ、歓迎されない向きもあるゆえご注意ください。

### №6 「春が来た変奏曲」

マンドリン演奏 平野ユキノリ

本日は、春の訪れをひと足早く告げる曲「春が来た」を中野二郎の編曲でお届けします。中野は岡野貞一の同名原曲を、無伴奏で、マンドリン独奏曲として仕上げた。メロディの輪郭を保ちながら、音色やリズム、響きの重なりを変え、旋律の表情を広げる。変奏が進むほどに同じ歌が変わる面白さが窺える。きらめき、和音、余韻で終盤に。早春に相応しい春の気配がにじむ作品として独立感があります。(以上、奏者の平野ユキノリから)



## №7 「魔法かけてみよう！」 作詞作曲：ジュン葉山 **初演**

「テクマクマヤコン」と呪文を唱えたと何にでも変身できた「ひみつのアッコちゃん」（赤塚不二夫原作 アニメは1969年～）は、当時の少女に大うけ、現代につながる魔法少女シリーズの元祖です。当時は私も魔法のコンパクトを親におねだりして買ってもらった少女の1人。でも大人になると、そんな夢や希望も忘れて毎日がmessyで…。いやまて、本当はもっとやりたいことがあったはず。自分を変えられるのは自分じゃないか？ 人生、一度っきり。あの少女時代のワクワクを思い出し、ちょっと自分に魔法かけて出来たのがこの曲。（ジュン）

### ◆ Intermission ◆

（休憩15分 第2部16:55～）

## 第二部 昭和30年代と現代の青春

「プティフルー」がやたら流行ったのもこの時代。商店街のスピーカーから毎日流れるポップスで歩く人々もウキウキ。まだCDはなく、LP全盛でテープレコーダーが一般化し、リール形式からカセット化し、それをポケットに。トランジスタ・ラジオが大流行するのもこの時代。カーステレオもカセットで。LPレコードをカセットテープにダビング。楽しくて楽しくての時代。

## №8 「学生時代」 作詞作曲：平岡精二 **さあ皆さんと一緒に！**

ペギー葉山の持ち歌だから、青学の歌だとも言われるが、世間で良く歌われるが、青学ではそうでもない。筆者は15年間青学の夜間部でAmerican studiesを講義していた。ペギーさんもお元気でFiddler on the Roof再演で相談したり、チャペルで英文学科の学生諸君に誘われて御ミサに参列したり…想えば歌の文句通りの日々だったが…今、キャンパスに戻れば見知らぬ顔ばかり。教師時代も夢、夢…。

### プロデューサー濱野成秋より 古賀政男門下の山下優樹君のプロデビュー

本日はもうお一人、本邦マンドリン界の名手を紹介します。山下優樹君です。かれはこの春、明治大学を卒業予定。古賀政男創設の栄えあるマンドリン倶楽部のコンサート・マスターからプロデビューです。古賀メロディを弾かせれば、その情緒が切々と皆様の心に沁みわたります。ジュンちゃんと一緒に考えましたが、まるで竹久夢二の絵に出て来る青年のようです。皆さまどうぞ拍手を持ってお迎えください。

## №9 マンドリン音楽傑作集

原曲にマンドリンが使われた楽曲を三曲選りすぐって演奏いたします。一曲目は昭和五九年にテレサ・テンが切なく歌いヒットした『つぐない』、続いて名優アラン・ドロンの主演で大当たりをとった仏伊合作の映画『太陽がいっぱい』の主題曲、そして最後は私がコンサートマスターを務める明治大学マンドリン倶楽部を創部された古賀政男先生の代表作『丘を越えて』です。あの日、あの頃の懐かしい思い出に浸りながら御聴き下さい。（山下）

## №10 [春の海]

演奏：平野ユキノリ 山下優樹

正月の音楽といえば誰しも真っ先に思い浮かぶであろうこの曲は、昭和四年に宮城検校こと宮城道雄先生により作曲されました。作曲から一〇〇年近く経った現在でも国内外からの評価が高く、当時の伝統音楽界に新風を吹き込んだ名作として今日迄廃れる事なく弾き継がれています。原曲を総て演奏すると七分程を要しますので、本日は皆様が御存知の部分の抄出して演奏いたします。（山下）



No11

## 「尽くして拒んで泣きぬれて」初演

作詞：濱野成秋 作曲：ジュン葉山

早春、新曲の発表です。これは「なぎさ橋ブルース」に次いで現れた10年後の「御成町ブルース」に次ぐ男女二人の、最果ての愛を唄います。この新作登場までには一波乱ありました。一曲まるまるお蔵入りに。詳しくは「日本浪漫学会」のHPで。「みそぎ橋ブルース」で検索して下さい。

No12

## 「ノストラダムスの魂」

作詞：濱野成秋 作曲：ジュン葉山

橘かほり作詞の鬼気迫るfortune tellerの物語。諸君を幻想の世界にお連れする時空を飛翔する魂魄の詠歌。暗い宿命を打破するには、己が破戒僧に成らねばならない。古賀さんも服部さんも、その魂魄には神が宿り、歌の文句にもある「暗い運命にうらぶれ果てし身を」解き放ち、輝ける人生を築かれた。その立派さにジュンと成秋は二人の大先達にこの歌を捧げます。

No13

「もう一度直球勝負！」作詞作曲：ジュン葉山 **ラストはみんなで直球勝負！**

これは自らを奮い立たせる女性の歌。世の男どもよ、女を甘く見るでない。おおこわ！ ご存知か、フェミニズムという流行語は今に始まったことではない。明治30年代、平塚らいてうや『青鞥』の面々の主張でもある。

## Profile



シンガーソングライター

ジュン葉山

YouTube  
チャンネル

SNS



1965年目黒区生まれ。英語と音楽の才能は2歳から。小学生で洋楽に目覚める。慶應義塾大学英米文学科卒。在学中は、混声合唱団「楽友会」に所属。1987年(株)服部セイコーに入社。専務秘書に。結婚子育てがひと段落し音楽好きが再燃。ベーシストの根市タカオ氏、ピアニスト大森史子氏にジャズを師事。銀座、六本木等でジャズ、ラテンのボーカリストとして活動。2018年より作詞作曲を始め2020年シンガーソングライターとして独立。2023年tvk「あっぱれKANAGAWA大行進」、2024年テレビ東京「モヤモヤさまぁ〜ず2」、2025年BS日テレ「歌謡プレミアム」に出演。好評を得る。



濱野成秋

プロデューサー  
作家・作詞家

日本浪漫学会HP



著書「日朝、もし戦えば」(中央公論社)の眼力で「ノストラダムスの魂」を作詞。筆名「橘かほり」は家紋から。NY州立大客員教授時代に中世日本文学の幽玄の世界を語る。アメリカのポストモダン文学を日本の文芸誌に連載。明大、一橋大、早大、青学大などの講師歴。日本女子大学文学部教授歴。現在日本浪漫学会会長。博士論文審査員資格。著書編著多数。



平野ユキノリ

マンドリン  
作曲家

群馬県高崎市生まれ。高崎高校でマンドリンを始め、同志社大学マンドリンクラブで研鑽。東京・群馬・静岡を拠点に活動。2025年 国際ジャズコンペ3位、2018年日本独奏4位、2015年ARTE国際4位。『Shake the Bio』iTunesフォーク1位『Raga Sōma』Apple Music Top30。石村隆行・久保田孝・竹間久枝、作曲は清水響に師事。



山下優樹

マンドリン  
作曲家

大阪・北摂に育ち幼少期よりピアノやクラリネットといった楽器に親しむ。大学入学に際し古賀政男先生たちが創設された明治大学マンドリン倶楽部に所属。第一〇三代コンサートマスター(令和五年)を務め、舞台ではマンドリンの他、バラライカ、大正琴、レキントギター、マンドリュート、アコーディオンなど様々な楽器を演奏し大衆音楽の再評価に邁進している。



## More Information

## 次回コンサート

2026年 5月 30日(土)  
開場13:00 開演13:30

鎌倉生涯学習センター きらら鎌倉

主催・ご予約  
お問い合わせ

ジュンミュージックオフィス

TEL:090-4822-0935

junmusicoffice0425@gmail.com